

(一六二)	同	番外二	青森縣 下北郡 大畑村 正津川 下小川	正同津川 大畑村 關根橋	平水 * 五〇 低水 * 三七 湧水 * 二六	* 一〇〇	四一 五五	二四〇〇	二六九	八四一 九五五	一〇〇〇 二八九	六二 五〇 三八九	乙
(一六一)	同	番外一	青森縣 下北郡 大畑村 正津川 八瀧澤	正同津川 下大畑村 小川	平水 * 三八 低水 * 二八 湧水 * 二〇	* 一七五	七三 五四	二二〇〇	二〇五	八四一 九五五	一〇〇〇 二八九	六二 五〇 三八九	丙

水力地點ノ説明

順位一六〇 泉澤合流附近ヨリ取入レ左岸ヲ八瀧澤ニ導キ放水ス

順位一六一 八瀧澤ヨリ左岸ニ沿ヒ下小川ニ至リ放水ス

順位一六二 下小川ヨリ右岸ニ引水シ關根橋ニテ發電ス。各地點トモ全部隧道トス

恐山湖口ハ幅三間内外ニシテ河床ハ平坦ナル岩盤ヨリ成ルカ故ニ本川ヲ横斷シテ堰堤ヲ築造セハ容易ニ湖面ノ水位ヲ數尺高メ貯水量ヲ増加スルコトヲ得ヘシ

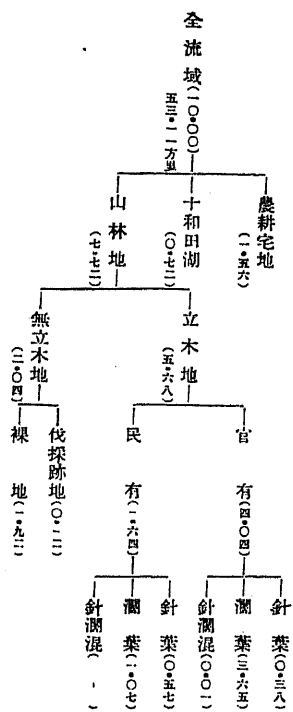
今湖口ノ水面ヲ上昇シタル後南方屏風山釜臥山ノ東麓ヲ大湊迄導水シテ發電セハ前記三地點ト殆ト同一ノ長サノ水路ヲ以テ數百尺ノ落差ヲ得且大湊ヘノ供給ハ送電線ノ距離ヲ短縮スルヲ以テ利益ナラン

第三章 奥入瀬川水系

一、流域 本川ハ陸奥國東中央部ニ位シ中央脊梁山脈ノ重鎮八甲田山群ノ峯巒中ニ介在圍繞セラルル山間湖十和田湖ニ發シ北流スルコト約三里、宇燒山ニ於テ俄ニ東方ニ轉シ幌内、黄瀬、薦、中里ノ諸溪流及熊ノ澤川ヲ合セ大字三本木ノ南方ヲ過キテ百石村ニ至リ太平洋ニ注ク流路延長約一六里ナリ。流域ハ上北郡ノ南部即チ法與澤村、四和村、六戸村、下田村、百石村ノ全部並三本木町、藤坂村、戸來村、倉石村、川内村及市川村ノ各一部ヲ占メ面積五三方里アリ形狀不規則ナル三角形ヲナシ土地一般ニ高燥ナリ、概シテ流域ノ南北兩部ニ峻嶺屹立シ中央盆地地形ヲナスト雖地形ノ大勢ハ東方ニ傾斜ス法量ヨリ下流ハ地勢廣濶トナリ三本木ニ

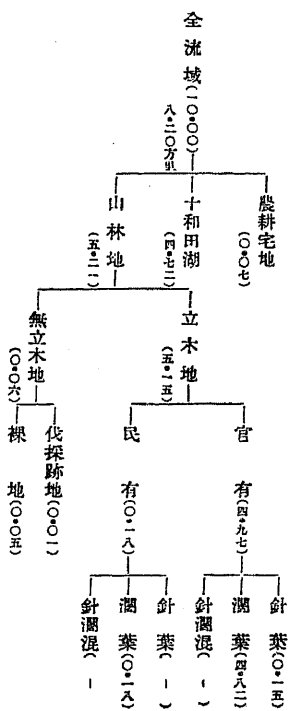
至ルニ從ヒ平原狀ヲ呈シ水田耕地ヲ現ハセリ。水源タル十和田湖ノ周圍ハ湖口及其ノ對岸ニ僅少ノ第三紀層アルノ外皆火山岩ニシテ水力地點ノ内最上流ノ一地點ハ火山岩ニ屬スルモ他ノ水力地點ハ皆第三紀層ニシテ下流地方ハ兩岸ニ狭少ナル第四紀層平地ヲ有ス其ノ他ノ地ハ多クハ第三紀層ノ緩傾斜地ナリ

奥入瀬川流域林野狀態一覽表 括弧内ノ数字ハ全流域ニ對スル面積ノ割合ナリ (河口ヨリ上流部)

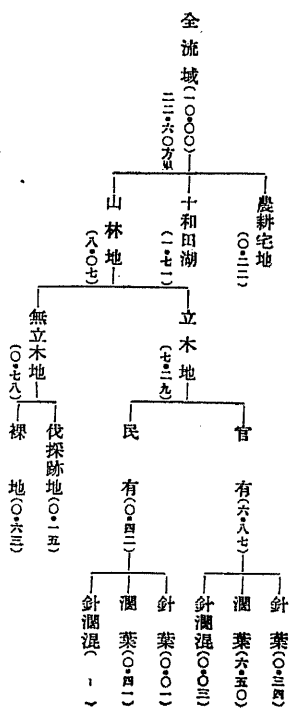


流域内林野ノ内國有林ハ其ノ四割ヲ占メ上流部秋田縣ヲ界トシ十和田湖ヲ包ミ子ノ口ヨリ下流ニ向ツテ御子嶽ニ連リ惣部澤、生内川、幌内川、黄瀬川、萬川等ノ全流域ヲ含ミ中里川、熊ノ澤川ノ上流ニ亙レリ。中ニモ中里川、黄瀬川、萬川ノ流域ハ原生濶葉大樹林地ニシテ此ノ外人工造林モ各所ニ散在ス國有林ノ一部ハ伐採利用セラレタリト雖概ネ古來未タ斧鉞ヲ入レサル大森林ニシテ二三十年ノ樹齡ヲ

奥入瀬川流域林野狀態一覽表 括弧内ノ数字ハ全流域ニ對スル面積ノ割合ナリ (子ノ口湖所ヨリ上流部)



奥入瀬川流域林野狀態一覽表 括弧内ノ数字ハ全流域ニ對スル面積ノ割合ナリ (奥瀬湖所ヨリ上流部)



有ス又十和田湖附近奥入瀬川一帯ノ林地ハ風致保安林トシテ十和田風光維持ノ爲保護セラル。民有林ハ大字法量ヨリ下流ニ在レトモ大部分伐採セラレテ林相疎悪ナリ共有林ハ各所ニ存在ス本流域ハ馬産地ナルヲ以テ下流三本木附近ハ放牧採草地多ク林野狀態良好ナラス樹種ハ上流部

ハ山毛櫸、檜、桂、楓等ニシテ下流部ニテハ松、檜、杉、山毛櫸、檜等ナリ

本川ノ水源十和田湖ハ陸中國鹿角郡及陸奥國上北郡ニ跨リ東西凡ソ二里十町南北二里二十町周圍十二里餘其ノ流域ハ八方里ニシテ水面積三八方里アリ湖ノ周圍ハ悉ク山地ニテ圍マレ水際ニモ平地少シ周圍ノ山嶽ハ何レモ湖面上三、四百米ノ高サニ在リ受水區域ハ湖ヲ圍繞スル山岳ノ斜面ニシテ湖ニ注入スル川トシテハ湖ノ南岸ニ宇樽部川アルノミ湖ノ水面ハ海抜一、三、二三尺ニシテ水面下最深部ハ一、〇八〇尺ニ達シ其ノ他モ二、六〇尺内外ノ水深ヲ有シ湖口ハ僅ニ子ノ口ノ一端ニ開ク蓋シ天然ノ一大貯水池ナリ

本川ノ流域内氣象狀態ヲ見ルニ十和田湖ニ於ケル年降水量ハ大正八年ヨリ十年ニ至ル三箇年平均二、二三〇耗中流部爲二、四三四耗、氣温ハ十和田湖畔ニ於ケル年平均七五度月平均ノ最高ハ八月ノ二一〇度最低ハ二月ノ零度以下(略シテ)ト書ク以下同斷三三度ニシテ日ノ絶對最高ハ三〇・二其ノ最低ハ(一)・二ナリ蒸發量ハ年量五八三耗ニシテ月最多ハ七月ノ六八・一耗日最多ハ同月ノ九五耗ナリ

ニ屹立シ高サ數百尺ニ及ヒ僅ニ通路ヲ存スルノミ。河川勾配頗ル急ニシテ到ル處飛瀑激湍アリ其ノ大ナルハ湖口ヨリ十數町ニアル銚子瀧子ノ口瀧ニシテ二〇尺ノ高サヲ有ス。子ノ口ヨリ法量ニ至ル間落差一、〇〇〇尺ニシテ勾配八三分ノ一、法量以下地勢漸ク廣濶トナリ水流ハ平坦部ヲ自由ニ流レ耕地ノ兩岸ヲ洗掘セルヲ見ル、平均勾配三〇〇分ノ一ニシテ河川ハ殆ト砂礫ニテ覆ハル

湖口子ノ口及法量ニ於ケル既往三年間ノ水位觀測及測水ノ結果ヲ見ルニ湖口子ノ口ニ於テハ水位ノ變化極メテ少ク最高水位ト最低水位トノ差僅ニ一・六尺、最大流量ト濁水量トノ比ハ二・四ニ過キス流量ノ變化僅少ナリ其ノ濁水量ハ一五一個即チ流域一方里當一・八四個ヲ有ス之レ全ク湖水ニヨリテ洪水量カ緩和セラルルト森林狀態良好ナルトノ爲ナリ。法量ニ於テハ湖口ニ遠サカリ且數多ノ支流流入スルカタメニ湖水ニヨル調節ノ影響少ク最大流量ト濁水量トノ比一・八ニ及ヒ水位ノ差四・八尺濁水量流域一方里當一四四個ニ減少ス一年ヲ通シ月平均水量ノ最小ハ冬期二月ノ候ニシテ三月之ニ次ク最小流量ハ二月ニ起リ高水ノ起ルハ七月ヨリ十月迄ニシテ五月ノ融雪時ニモ屢高水ヲ生ス

奥入瀬川流量表

平均ニハ大正十一年ヲ含マス  
流量ニ( )ヲ附セルハ合水ヲ加算シタルモノナリ

順位	舊順位	河川	測水所	流域積域	年次					流域一方里當流量									
					平均	最大	平水	低水	濁水	最小	最大	平水	低水	濁水	最小				
五〇	一〇	奥入瀬川	青森縣 上北郡法奥澤村 奥瀬 十和田子ノ口	八・〇〇	大正八年 三三四	大正九年 三二九	大正十年 三二五	大正十一年 三二七	平均 三二〇	六七〇〇	四八八〇	三三三〇	二七九〇	二九八〇	二七〇〇	二二五〇	一八四〇	一六二〇	
五一	一一	同	青森縣 上北郡法奥澤村 奥瀬 下川目	三・六〇	大正八年 六二九	大正九年 六二〇	大正十年 六二七	大正十一年 六二九	平均 六二五	一〇七〇〇	八七〇〇	五五〇〇	四三〇〇	五二〇〇	六〇〇〇	五五〇〇	四八〇〇	四二〇〇	三三〇〇

河水ハ湖水ヨリ流出スルモノ大部ヲ占ムルヲ以テ水清ク浮游物少シ

本川水源部ニ於ケル氣温ノ變化前述ノ如ク一般ニ甚タ寒冷ナルカ故ニ毎年十一月ヨリ翌年五月迄ハ湖面結氷シ降雪多ク積雪數尺ニ達ス然レトモ河川ハ急流ナルヲ以テ流水緩ナル所ノ外結氷セス流水ハ春季融雪時ニ多ク子ノ口ノ如キ最甚シキモ流量ニ至レハ僅少ナリ

三、水利及治水 湖口子ノ口ヨリ字立石ニ至ル約六里ノ

間ハ兩岸ノ山勢急ニ蹙ルヲ以テ全ク耕地ナシ立石以下稍廣キ水田存シ引用水路ノ大ナルモノニアリ即チ奥瀬堰、三

本木堰ニシテ前者ハ二八〇町步、後者ハ七〇〇町步ヲ灌溉ス。流材ハ四季管流行ハレ年量用材一三、五〇〇尺、薪炭材二、〇〇〇棚ナリ舟筏ハ行ハレス。水力事業トシテハ水車ヲ運轉シテ醋酸製造ニ従事スルモノ一、製材ヲナスモノ二、許可水力地點トシテハ七戸水電經營ニカカルモノ一アリ河川流水ヲ使用スル事業ノ重ナルモノヲ擧クレハ左表ノ如シ

水車ノ位置及使用水量調査表 奥入瀬川水系奥入瀬川

取入口	放水口	用途	使用水量	摘	要
法奥澤 奥瀬 燒山	法奥澤 奥瀬 橋ノ上山	製材用	一四・二	一部水田灌溉用水ニ使用ス	
法奥澤 燒山	法奥澤 燒山		二六・〇		

灌溉用水調査表 奥入瀬川水系奥入瀬川

用水名	灌溉面積	灌溉地區	取入口	使用水量	摘	要
大畑野堰	水田 四〇町	法奥澤村 大畑野、下栃久保	法奥澤 奥瀬 栃久保	一六・九	大畑野ニテ本流ニ流入(右岸)	
小倉堰	同 一四	同 村 小倉	奥瀬 一番	二四・一	放水口ナシ(左岸)	
赤石堰	同 一二	同 村 赤石	赤石	一九・七	奥瀬堰ニ流入(右岸)	
奥瀬堰	同 二八・二	同 村 奥瀬	同	二〇・七〇	奥瀬調水所上流ニテ取入レ生内川ヲ合シ大字澤田字長沼ニテ本流ニ流入(右岸)	
北向堰	同 二五	同 村 北向	北向	一三・三	北向川ヲ合セ本流ニ流入(右岸)	
三本木	同 七〇〇	三本木、大深内、藤坂、六戸、下田ノ各村	法量	一五一・〇	中里川ヲ合セテ使用ス(左岸)	

四、水力地點

本川ハ水源ニ一大貯水池タル十和田湖ヲ

尺ノ懸崖峭立シ右岸ハ三〇間ノ平地ヲ隔テテ山トナリ傾

有シ且上流一帯ノ森林狀態甚タ良好ナルカタメ水量頗ル豊富ニシテ一年中ノ増減變化極メテ少シ而シテ子ノ口ヨリ法量ニ至ル六里餘ノ間ハ落差一、〇〇〇尺ニ達スルヲ以テ良好ナル地點ヲ形成セリ。十和田湖子ノ口ハ河幅僅ニ七間半水深四尺ニシテ河底ハ岩盤ヨリ成リ左岸ハ百數十

斜頗ル急ナルヲ以テ堰堤築造ニ適ス。高キ堰堤ヲ築造シテ貯水スルカ或ハ湖口ヲ低下シテ利用水深ヲ増加セハ一箇年ヲ通シ現在ニ幾倍スル水量ヲ使用シ得ヘク水力利用上一考スヘキ價值アルモノト信ス 東北本線古間木驛ヨリ三本木ニ至ル間ハ軌道新設セラ

レ三本木ヨリ十和田子ノ口ニ至ルマテ幅二間ノ道路開通 セラレアルヲ以テ交通並物資運搬ハ頗ル便利トナレリ

奥入瀬川水力地點表 順位(一)ヲ附セルハ許可地點ト關係アリ

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	互水長路	面流域	能發電	年平均馬力數	等數
一六三	奥入瀬川	一	青森縣上北郡法奥澤村 奥瀬十和田子ノ口	同郡 奥瀬十和田馬門	湍水 一五一 低水 一七九 平水 二二〇	四一六	六、九七三 八、二六六 一〇、一五九	四三〇	八、〇〇	一〇〇〇 九八二 九八	六、九三三 八一七 九三六	甲
一六四	同	二	青森縣上北郡法奥澤村 奥瀬十和田馬門	同郡 奥瀬法奥澤山	湍水 一七九 低水 二七〇 平水 三四六	一七七	三、五一七 五、三〇五 六、七九八	二二八〇	二、四〇	一〇〇〇 九八八 八八八	三、五二七 五〇八一 六、〇〇七	甲
一六五	同	三	青森縣上北郡法奥澤村 奥瀬燒山	同郡 奥瀬法奥澤石	湍水 二八四 低水 四二九 平水 五五〇	一九六	六、一七九 九、三三三 一、一九六六	三二八〇	一九七〇	一〇〇〇 九八八 八八八	六、二一九 八、九四一 一〇、六六	甲
一六六	同	四	青森縣上北郡法奥澤村 法奥澤川	同郡 法奥澤村	湍水 二二九 低水 三七四 平水 四九三	一〇二	二、五九三 四、一三四 五、五八二	二四〇〇	二、一〇〇	一〇〇〇 九八六 八七九	二、五九三 四、〇四八 四、九〇七	乙

水力地點ノ説明

順位一六三 本地點ハ水路ヲ左岸ニ選ミ子ノ口ヨリ取入レ馬門ニ放水水路ハ全部隧道トス

順位一六四 本地點ハ馬門ヨリヒシツベ川惣邊川ノ水ヲ合セテ取入レ右岸ヲ隧道ニテ燒山ニ出テ放水ス

順位一六五 本地點ハ燒山ニ於テ取入レ水路ハ全部隧道トシ右岸ヲ通シ字立石ニ放水ス

順位一六六 本地點ハ左岸ニ水路ヲ設ケ全部開渠ニテ流量ニ至リ放水ス。本地點ニハ關係用水路ニアリ奥瀬堰及流量堰ニシテ其ノ引用水量合計二〇〇個ナルヲ以テ之

ヲ控除セリ

第四章 馬淵川水系

第一節 概説

本水系ハ奥羽脊梁山脈ノ東方ニアリテ北流ス源ヲ陸中  
國九戸郡ノ南境國境峠附近ニ發シ平糲安比熊原ノ諸川ヲ  
合流シテ北流シ尻内附近ニテ四方展開セル耕地ノ間ヲ縫  
ヒ八戸町ノ北側ヲ過キテ太平洋ニ注ク其ノ流域ハ岩手縣  
二戸郡ノ全部及九戸郡ノ北部江刈村並葛卷村ノ全部及青  
森縣三戸郡ノ中央大半部ヲ占メ流域總面積一三二方里餘  
アリ地勢ハ西南ニ高ク北ニ向ツテ漸次低下シ流域ノ形状  
ハ南部ニ廣濶ニシテ北部ニ至ルニ從ヒ狹長ナリ地質ハ上  
流部ハ古生層ニシテ中流部浪打村ヲ中心トシテ第三紀層  
アリ安比川熊原川ノ兩岸山岳部及其ノ上流地方ニハ火山  
岩アリ三戸ヨリ下流兩岸ニ多少ノ第四紀層平地ヲ開ケリ  
森林ノ見ルヘキモノハ安比川上流部及熊原川上流一圓  
ノ國有林ニ止マリ他ハ多ク雜木粗林ニシテ良好ナラス耕  
地ハ三戸附近ヨリ下流兩岸ニ少シク存ストモ上流部ハ

大部分山岳荒原ニシテ沃土少シ。本川流域ハ東北ニ於ケル最寡雨ノ地ニシテ年降水量一、〇〇〇耗内外ナレトモ降雨口數ハ比較的ニ多ク又蒸發量ハ七八百耗氣温ハ年平均九度内外ナリ

河床ハ所々岩盤ヲ露出シ轉石少ク兩岸ハ深ク浸蝕セラレ斷崖絶壁ヲナス處尠カラス

流量變化ノ最激シキハ三月下旬ヨリ十月末マテニシテ十二月ヨリ翌年二月末マテハ一般ニ變化少ク出水ノ多キハ四月融雪時及八月十月ニシテ二月下旬及六月ハ最濁水シ一月二月九月之ニ次ク流域一方里當濁水量ハ東方ヨリ流入スル河川ト西方脊梁山脈ヨリ流入スル河川トハ其ノ量ヲ異ニシ西方ヨリ來ルモノハ東方ノ河川ニ比シ遙ニ多量ナツ即チ實測ノ結果ニ見ルニ東方ニ水源ヲ有スル本流馬淵川ハ一方里當僅ニ四個ナレトモ西方ニ水源ヲ有スル安比川ハ七三個ニ達ス之レ水源ノ森林狀態良好ナルト冬季降雪量大ナルカ爲ナラン

本水系中水力利用ノ見込アルハ本流馬淵川及支流安比川ノミナルカ概シテ落差小ナリ外川川平糲川等利用ノ途ナキニアラサレトモ面積小ニシテ從ツテ流量モ少キカ故ニ大ナル發電力ナシ。水力事業トシテハ既設發電所本流ニ